

ウィズ
withコロナ時代
を生きる
vol.3 ともに続けよう 感染予防

検温



中央八丁目児童館で撮影。子どもたちも感染症対策を取りながら、放課後の時間を過ごしています

新しい日常の新しいルール



手洗い



ソーシャルディスタンス



新型コロナウイルス感染症の国内感染が確認されて、約10か月。区内では、依然として新規陽性者が発生しており、予断を許さない状況です。

これからの季節は、インフルエンザの流行も懸念されます。私たち一人ひとりに、感染防止の心がけが強く求められます。感染を拡大させないための行動を、ともに続けていきましょう。

message

区民のための大田区モデルへの責任と期待

大田区と東邦大学が連携して、新しく研究・教育活動を始めることになりました。区民の命と生活を守る官学連携プログラム「感染制御学講座」です。大田区と東邦大学が本活動を通してこれまで以上に強力に連携することにより、大田区全体での感染症対策のレベルアップに努めていきたいと思います。

大学と行政の連携による研究・教育活動の開始は、危機管理としての感染症対策を考える上でも重要な方向性を示しています。本活動では、東邦大学として主に以下の内容に取り組んでいきます。

- 効果的な行財政運営の実現に向けた医学的知見からのアドバイス
- withコロナを踏まえた産官学連携促進に向けたアドバイス
- 区民に対する迅速かつ正確な情報発信
- 感染症診療と対策・行政に関わる人材の育成
- 区内の感染症状況の把握と対策へのアドバイス

感染症の問題は新型コロナウイルス感染症で終わりません。耐性菌の問題や輸入感染症など、さまざまな感染症リスクに対応していかなければなりません。本プログラムが、官学が連携して行うプロジェクトの象徴となるように活動をしていきたいと思います。区民の皆さまのますますのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

たてだ かずひろ 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授

／(一社)日本感染症学会理事長／政府新型コロナウイルス感染症対策分科会メンバー

区民の命と生活を守る官学連携プログラム(11月1日～)

～大田区と東邦大学の双方の強みを生かした感染制御学講座の設置～

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない、ポストコロナと呼ばれる時代の中、区は新たな行財政運営モデル「大田区モデル」の確立を東邦大学と連携して進めていきます。

これまで培ってきた東邦大学との連携をさらに発展させ、医学的知見を踏まえた行財政運営で区民の皆さまの命と生活を守ります。

大田区

官学連携プログラム

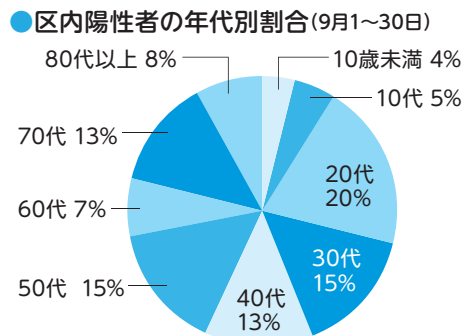
東邦大学

区民の命と生活を守る

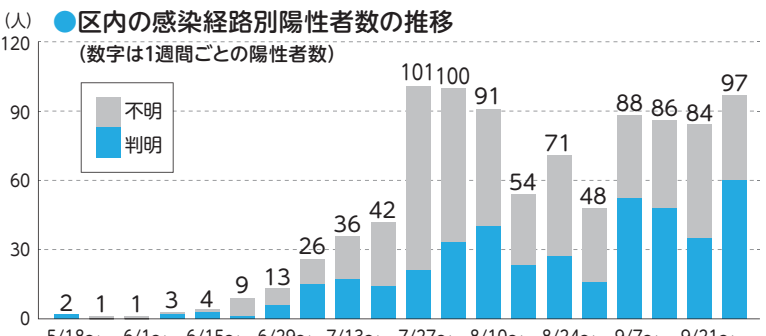
区内新型コロナウイルス感染症情報

令和2年10月11日時点 ●累計陽性者数 1,290名 ●回復者数 1,015名

●区内陽性者の年代別割合(9月1～30日)



●区内の感染経路別陽性者数の推移



●9月の区内の傾向

- 8月と比べて、50代以上の陽性者が増加しており、特に70代以上が全体の約2割を占めています。
- 感染経路が判明しているのは、全体の約5割でした。
- 感染経路のうち、家庭内、友人や職場などの会食での感染が増加している傾向があります。

問合せ先 大田区新型コロナウイルス感染症対策本部(防災危機管理課) ☎5744-1235 FAX5744-1519

8 大田区報 令和2(2020)年11月1日号 ※新型コロナウイルス感染症に関する記事は、10月11日時点の情報に基づいて作成しました。回復者数は、統計処理済みの人数を掲載しています。